

野田市自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会
令和7年度 第1回専門部会（就労支援部会）次第

日 時 令和7年7月4日（金）
午後2時から

会 場 保健センター3階大会議室

1 開 会

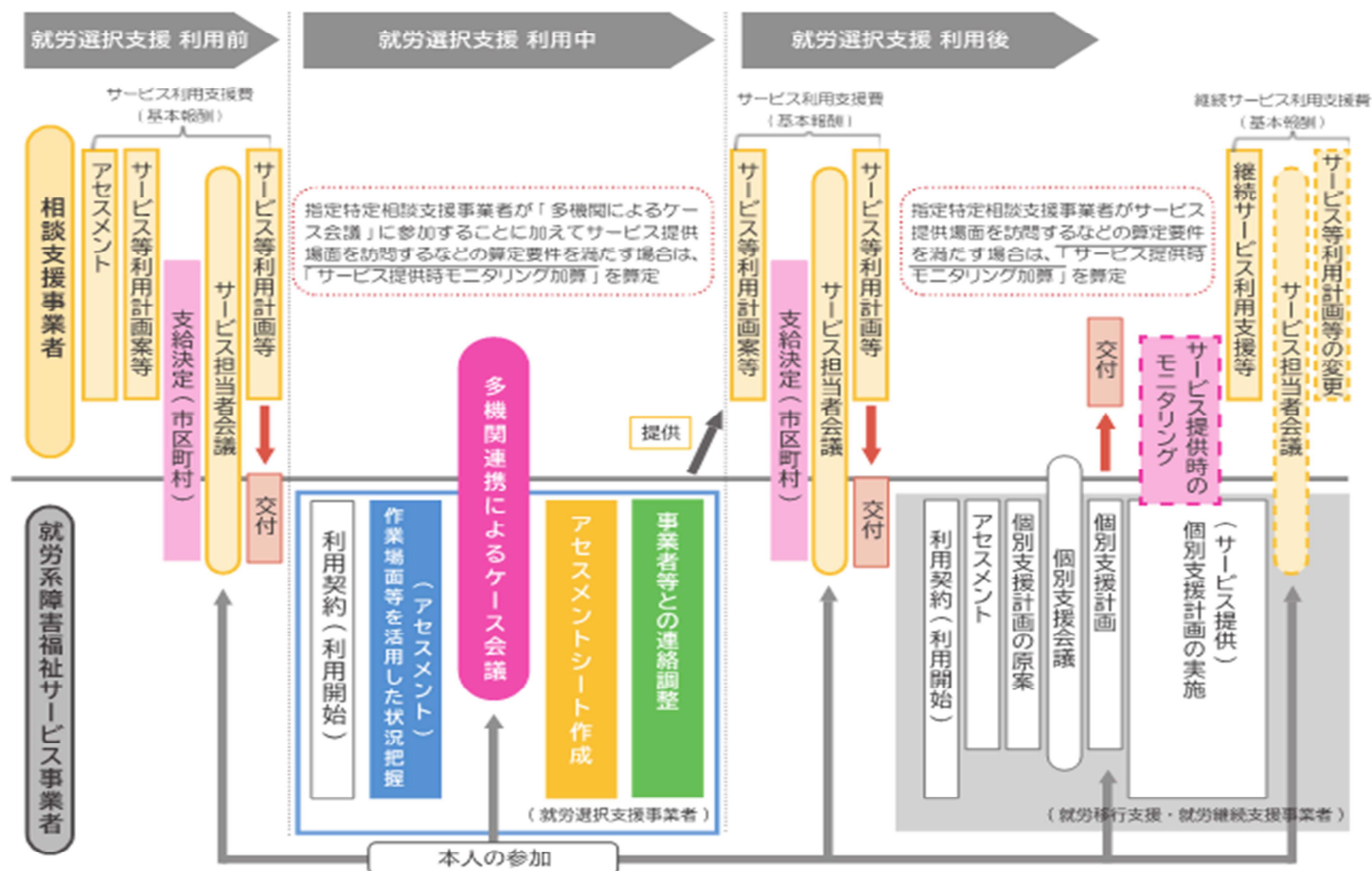
2 議 題

（1）就労選択支援について（勉強会）

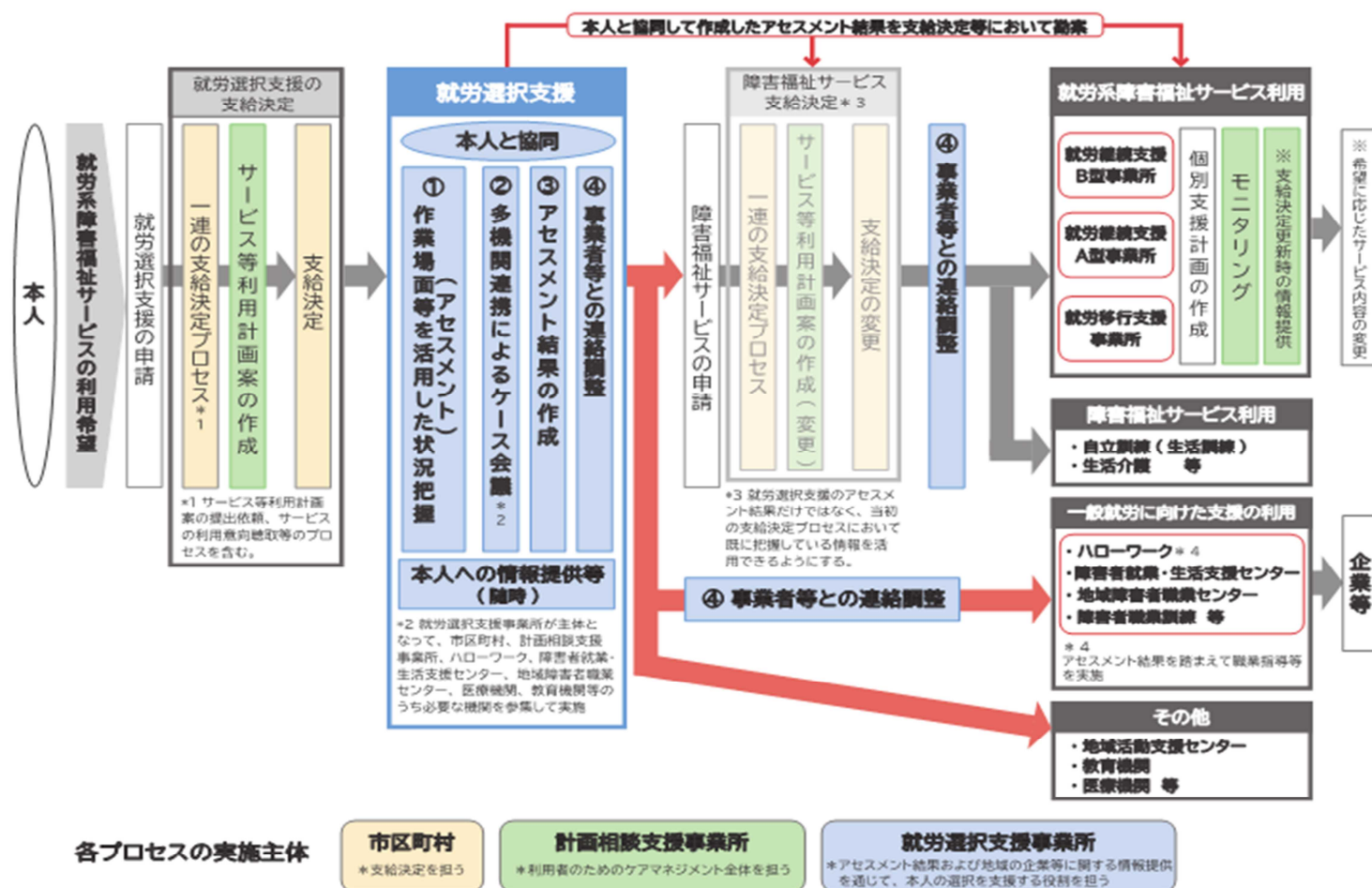
（2）その他

3 閉 会

指定特定相談支援事業所(計画作成担当)と就労選択支援事業者の関係



事業の基本プロセス



就労選択支援におけるアセスメント

1. 目的

就労選択支援のアセスメントは、本人が「働きたいと思う気持ち」を尊重しつつ、どの就労形態が合うかを具体的に見立てるために実施します。就労継続 A 型、B 型、一般就労、就労移行、生活介護など適したステップと一緒に考える準備の位置づけです。

2. アセスメントの内容

(1) 本人の希望・意欲

何をやってみたいか（職種、働き方、将来像）

過去の就労経験・学校での活動内容

週何日・何時間くらい働きたいか

本人の働きたい理由

(2) 健康状態・生活リズム

服薬状況、通院状況

朝起きてから寝るまでの生活サイクル

体調不良時の対処方法

疲れやすさや休憩の取り方

(3) 認知・理解面

指示の理解度（口頭・メモ・絵などどんな方法が良いのか）

作業手順の習熟能力・継続力

スケジュール管理や時間感覚

(4) コミュニケーション・対人面

指示の聞き返しができるか

相手に質問できるか

周囲との関わりの様子（話しかけやすさ、配慮の必要性）

苦手なコミュニケーション場面

(5) 作業の応力・集中力

立位作業・座位作業の可否

細かい作業の得意不得意

集中力の継続力

作業スピード・正確性

(6) 支援の必要度

通勤方法の確認

作業時の支援（見守り、声かけ、同行など）の程度

金銭管理の状況

家族・支援者の協力体制

3. アセスメント方法

面談(本人・家族)

行動観察(体験利用・実習)

通所・体験時の記録

関係機関からの情報(計画相談、学校、病院)

4. アセスメント結果の活用

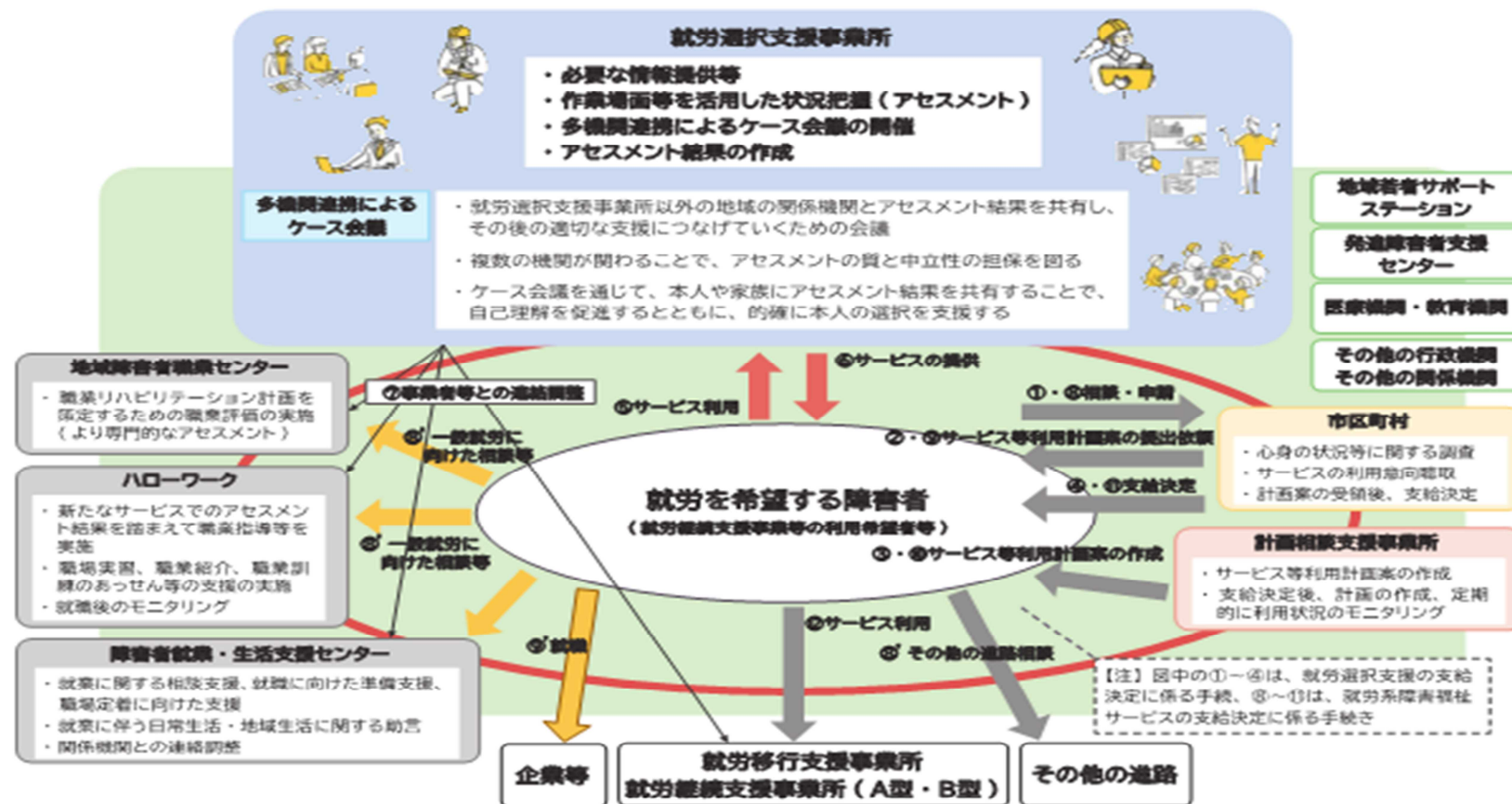
本人・家族と一緒に次のステップを決める材料

どの支援型が良いかの整理

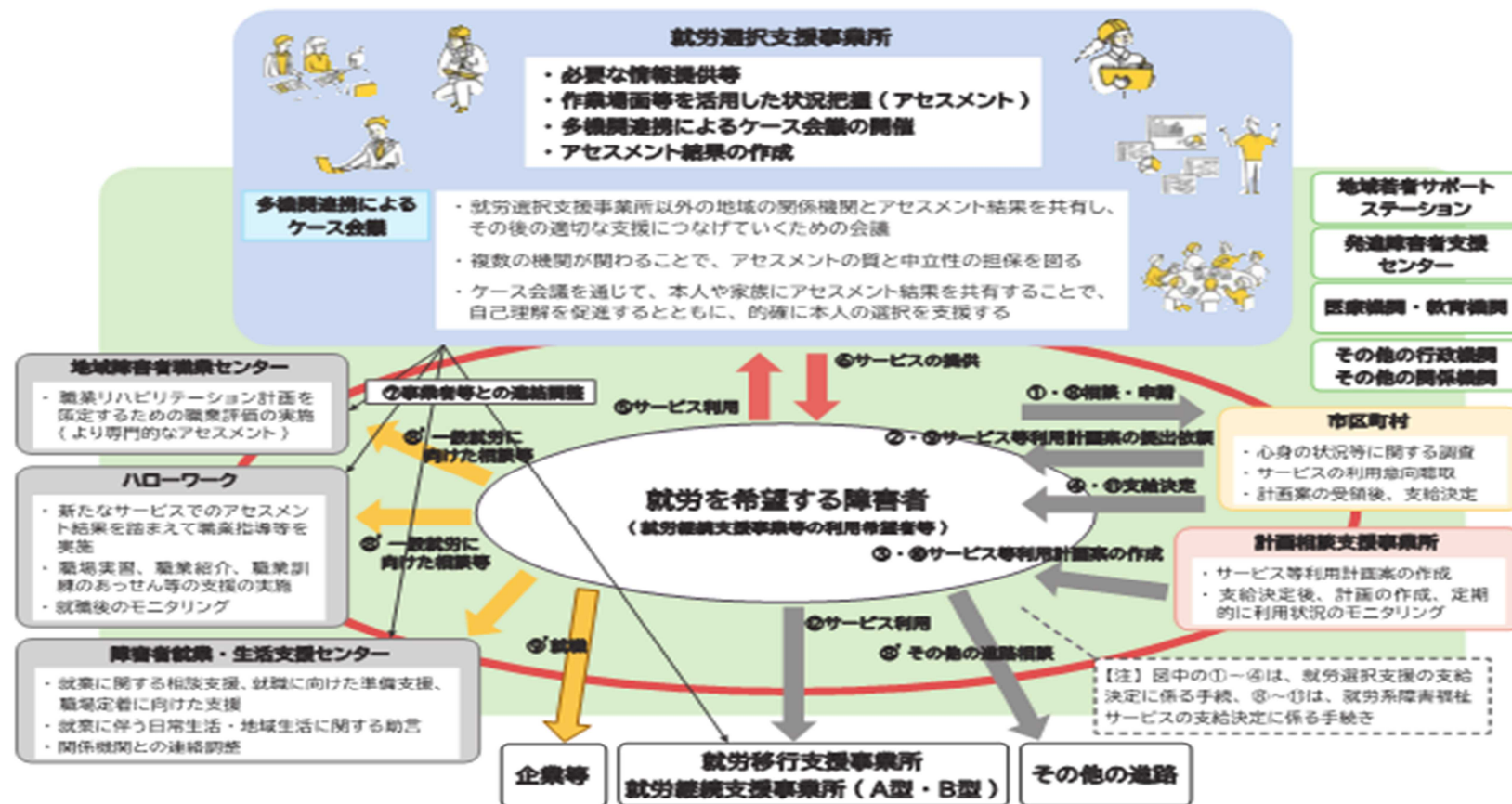
計画相談支援のサービス等の利用計画に反映

受け入れ先事業所選びの参考にする

就労選択支援における各機関の役割



就労選択支援における各機関の役割



就労選択支援の他機関連携によるケース会議について

1. ケース会議の目的

就労選択支援は、本人が「自分に合った働き方・働く場」を選択出来るように支援する事が目的であり、そのために関係機関が情報を共有・整理し、次のステップを具体化するためにケース会議を行います。

2. 他機関連携

- ・計画相談支援（相談支援専門員）
- ・障害者就業・生活支援センター
- ・医療機関(主治医・精神科訪問看護等)
- ・学校(特別支援学校・支援級担任)
- ・福祉サービス事業所(就労移行、就労継続A型B型、生活介護)
- ・ハローワーク(就労支援ナビゲーター)
- ・地域自立支援協議会就労支援部会

など、複数の支援機関が本人中心で情報共有し支援方針を検討します。

3. ケース会議の流れ

(1)会議開催の依頼・調整

- ・計画相談支援が中心となり日程調整
- ・本人、家族の同意取得
- ・必要な関係機関へ事前資料送付

(2)当日の進行内容

- 1 本人・家族の意向共有
働きたい気持ち、どんな働き方を目指したいか
家庭での状況、希望
- 2 アセスメント内容の共有
体験利用・実習結果、生活リズム、作業の適性
- 3 各機関の意見交換
医療機関：健康上の留意点
就労支援：作業能力、適応面、必要な支援
学校：得意不得意、対人面、学校での様子
家族：生活リズム、移動手段、家庭の支援状況
- 4 今後の方針検討
次のステップ(B型体験継続、移行体験、ハローワーク同行など)

支援担当機関・役割の整理

時期目標(何月までに体験評価、次のサービスへ移行)

(3)会議記録・共有

計画相談支援が記録を作成し関係機関へ共有

本人・家族にもわかる形で説明

サービス等利用計画に反映